

第6学年 国語科学習指導案

日 時 平成20年 9月26日(金) 5校時
児 童 6年 (男21名 女10名 計31名)
指導者 千葉 郁男

- 1 単元名 表現を味わい、豊かに想像しよう【読む】 (光村図書6年 下 p4～p27)
教材名 やまなし イーハトーヴの夢

2 単元について

(1) 児童について

児童は、「読むこと」に関して、物語文では「カレーライス」の学習を通し、大切な文を視写し、その視写文から登場人物の心情を考え、全体で交流して読み深めるという活動を行い、叙述に即して読むことを学習してきている。説明文では「生き物はつながりの中に」の学習を通し、教材文から大切な言葉を探しながら、文章構成をつかんだり、筆者の考えを読み取ったり、筆者の考えに対しての自分の意見をもったりする活動を行い、文章の要旨をとらえることと筆者の考えに対して自分の考えをもつことを学習してきている。その結果、文章の記述内容に依拠して自分が想像した登場人物の気持ちを考えたり、文章の構造と要旨をとらえ、筆者の考えに対しての自分の意見をもったりすることができるようになってきている。また、大切な文を視写し、その視写文の言葉から心情を考えること、キーワードや大切な文章にサイドラインを引き、その部分が大切な理由を考えることもできるようになっている。

本校の研究でとらえる「考える力」にかかわっては、文章全体や視写文の中の大切な言葉や文にサイドラインを引いて書き込みをしたり、図で簡潔に表したりして、自分の思いや考えをもつことができるようになってきている。「表す力」にかかわっては、自分の考えをもち筋道立てて文章に表すことのできる児童が多い。また、自分の立場を明らかにして発言できる児童も増えてきている。しかし、友達の影響を受けて自分の思いや考えを深めて発言する力と、自分の考えの変容を発言したり様々な表現方法を用いて話し合いを深めたり広げたりすることには、まだ至っていない。「共に高まろうとする態度」に関わっては、授業場面での話し合い活動で学習内容が深まることを実感し、話し合いをすることの価値を強く感じるようになってきている。

(2) 教材について

本単元は、第5・6学年の「読むこと」の領域に関する目標「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通じて考えを広めたり深めたりしようとする態度を育てる。」を受け、作品に描かれた情景を、叙述に即して想像しながら読む力と、作者の生き方・考え方について知るために、資料の内容を読む力を育てることをねらいとしている。

この単元は、宮沢賢治の作品「やまなし」と宮沢賢治の評伝「イーハトーヴの夢」の二つの教材で構成する。その理由は、宮沢賢治の作品そのものを読み味わい、その上で宮沢賢治の生き方・考え方を学び、宮沢賢治の思想がどのように作品に反映されているのか、逆に、作品から宮沢賢治の思想がどのように分かるのか、ということを読み取らせたいと考えたからである。

「やまなし」は、宮沢賢治独特の表現が駆使された、象徴的で深い思想性を持つ作品である。「五月」と「十二月」の二つの場面から構成され、対比的に表現されている。かにの親子を中心に川底の様子を描き、「五月」は自然の恐ろしさ・冷酷さなどを中心に、「十二月」は自然の温かさ・豊かさなどを中心に表現されている。その二つの場面对比的に読むことによって、それぞれの場面の情景が際立つことになる。また、文章全体に比喩的表現・擬声語・擬態語などが巧みに用いられ、谷川の様子を鮮やかに描写している。これらの巧みな表現や、二つの場面对比により、イメージ豊かに想像しながら読み取る力を高めるのに適した教材である。また、「イーハトーヴの夢」は、宮沢賢治に関わる筆者畑山博が書き下ろした評伝である。この評伝は、「やまなし」を書いた宮沢賢治の一人の人間としての生き方に触れることとともに、広い知識と高い理想をもつ宮沢賢治の考え方を知ることができる教材である。この二つの教材を同時に扱うことにより、宮沢賢治の生き方・考え方を重ね合わせながら、より深く「やまなし」で伝えなかった宮沢賢治の思いを読み取ることができると考える。

(3) 指導について

本単元の指導は次のように進める。

第一次では、まず、宮沢賢治のことで知っていることを出し合い、この単元に対しての興味・関心を高める。そして、宮沢賢治の評伝「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方・考え方を大まかに知り、宮沢賢治のことをさらに知りたいという意欲をもたせる。その上で、この単元の目的が、「やまなし」と「イーハトーヴの夢」から宮沢賢治の生き方・考え方を知ることと、「やまなし」以外の宮沢賢治の作品を読み、宮沢賢治の考え方をより深く知ることであるととらえさせる。最後に、この単元を通しての活動の流れを児童とともに作り学習の見通しをもたせる。

第二次では、「やまなし」の読み取りを行う。比喩的表現・擬声語・擬態語を大切に扱い、谷川の様子やかにかの親子の心情、「かわせみ」と「やまなし」の様子などを読み取らせる。まず、児童の視点を大切にしながら読み取りの課題設定をさせる。課題設定のあとは、児童一人一人に「五月」と「十二月」の場面ごとの谷川の様子を叙述から想像させる。その際に書き込みや絵を使って谷川の様子をワークシートに書かせることとする。そのワークシートをもとに、「五月」と「十二月」の場面ごとに、叙述に立ち返りながら全体で話し合い読み深めていく。「五月」と「十二月」の場面を読み取ったあとには、二つの場面を比較しながら、宮沢賢治が「やまなし」を通して伝えたかった思いについて話し合わせる。

第三次では、「イーハトーヴの夢」の読み取りを行う。文章に書かれている内容を宮沢賢治の生き方・考え方という二つの視点から読み取らせる。生き方については宮沢賢治の一生を簡単な年表としてまとめさせ、その年表をもとに宮沢賢治の生き方を全体で話し合う。考え方については宮沢賢治の考え方の分かる文章を抜き出し表にまとめ、その表をもとに宮沢賢治の考え方を全体で話し合い探っていく。各授業の最後に宮沢賢治の生き方・考え方を自分の言葉でまとめさせ、第四次の学習に生かしていく。

第四次では、宮沢賢治の考え方をより深く考えさせる。最初に、第三次で学習した宮沢賢治の考え方をもとに「やまなし」に書かれている宮沢賢治の伝えたかった思いについて再度考えさせる。「やまなし」を通して伝えたかったことは「やさしい心が通い合っていることの大切さ」と考える。「やまなし」に書いてある叙述やこれまでの学習内容をもとにその宮沢賢治の伝えたかった思いを話し合い、自分の言葉でまとめさせる。「やまなし」を通して宮沢賢治が伝えたかった思いを理解した上で、さらに、児童それぞれに「やまなし」以外の宮沢賢治の作品を読ませ、その作品から分かる宮沢賢治の考えを読み取らせる。読み取ったものを文章に表し、全体で交流する中で、友達の読みや考えのよさにも気づかせ、宮沢賢治の考え方をより深く理解させる。

【研究仮説に関わる指導の工夫】(○：単元全体、●：本時)

- ワークシートに書き込ませたり絵に表させたりすることによって、自分の考えをもつことができるようにする。(考える力)
- 文章や言葉にサイドラインを引くことにより、叙述をもとに場面の様子を読み取り、想像を広げたり大切な内容を読み取ったりできるようにする。(考える力)
- 自分の考えをもとに対話や話し合いを行う際に、友達の考えを受けてつけ足したり、自分の考えの変容を明らかにしたりしながら、話すことができるようにする。(表す力)
- 授業の「まとめる」の段階において自己の変容についての感想を書かせたり話させたりすることで、自分の考えの深まりを実感できるようにする。(共に高まろうとする態度)

3 単元の指導目標

(1) 関心・意欲・態度

- 宮沢賢治の作品を進んで読み、宮沢賢治の考えを知ろうとしている。
- 描かれた情景を手がかりに作品「やまなし」の世界を読み味わい、「やまなし」を通して宮沢賢治が伝えたかったことを考えようとしている。

(2) 読む能力

- 「やまなし」に描かれた情景を、叙述に即して想像しながら読むことができる。(読むこと ウ)
- 宮沢賢治の生き方・考え方を知らるために、「イーハトーヴの夢」の内容を読み取ることができる。(読むこと オ)

(3) 言語についての知識・理解・技能

- 比喩的な表現や擬声語・擬態語を手がかりにして情景を想像することができる。(言語事項 ウ(エ))

4 単元の評価規準

| 国語への関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語についての知識・理解・技能 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○「やまなし」以外の宮沢賢治の作品を進んで読み、宮沢賢治の考え方を知り、文章にまとめようとしている。 ○「やまなし」を通して宮沢賢治が伝えたかったことを、「イーハトーヴの夢」から読み取った宮沢賢治の生き方・考え方をもとに考えようとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○「やまなし」の「五月」と「十二月」の場面を、叙述をもとにして想像を広ながら読んでいる。 ○「イーハトーヴの夢」を読み、書いてある事実をもとに宮沢賢治の生き方・考え方を理解している。 ○「やまなし」の「五月」と「十二月」を比べながら、宮沢賢治の伝えたかったことを考えている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○「やまなし」の中にある比喩的な表現や擬声語・擬態語から想像できる情景を、言葉や絵などを使って表している。 |

5 単元の指導計画（11時間扱い）

| 段階 | 時 | 主な学習内容と学習活動 | 評価規準 | 学び合いの重点 |
|-----|-----------|---|--|-------------------------------|
| 第一次 | 第1時 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の見通しをもつ。 ・宮沢賢治について知っていることを出し合う。 ・「イーハトーヴの夢」を読む。 ・単元の学習の見通しをもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> ㊦ 単元の学習の見通しをもち、宮沢賢治の作品を進んで読もうとしている。(発言・ノート) | |
| | 第2時 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「やまなし」の読み取りの課題を設定する。 ・題名からの感想を出し合う。 ・全文を読み、課題を設定する。 | <ul style="list-style-type: none"> ㊦ 「やまなし」を読んだ感想をもち、「やまなし」の読み取りの学習課題を設定している。(発言・ノート) | 課題を作るための対話と話し合い活動 |
| 第二次 | 第3時 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「やまなし」の文章構成をつかむ。 ・大まかな文章の構成を把握する。 ・「五月」と「十二月」を言葉や絵を使って整理する。 | <ul style="list-style-type: none"> ㊦ 二枚の幻灯の情景などの表現に着目し、「五月」と「十二月」の違いや共通点を理解し想像している。(発言・ワークシート・ノート) ㊦ 比喩表現や擬声語・擬態語をもとに、言葉や絵を使って情景を想像している。(ワークシート) | |
| | 第4時 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「五月」の谷川の様子を読み取る。 ・描写から「五月」の様子を考える。 ・「かわせみ」について考える。 ・かへの親子の気持ちを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ㊦ 「五月」の様子を出来事や描写から想像を広げながら読み取っている。(発言・ワークシート・ノート) ㊦ 比喩表現や擬声語・擬態語をもとに、情景を想像している。(発言・ワークシート・ノート) | 谷川とかわせみの様子、かへの親子の心情について話し合う活動 |
| | 第5時 本時 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「十二月」の谷川の様子を読み取る。 ・描写から「十二月」の様子を考える。 ・「やまなし」について考える。 ・かへの親子の気持ちを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ㊦ 「十二月」の様子を出来事や描写から想像を広げながら読み取っている。(発言・ワークシート・ノート) ㊦ 比喩表現や擬声語・擬態語をもとに、情景を想像している。(発言・ワークシート・ノート) | 谷川とやまなしの様子、かへの親子の心情について話し合う活動 |

| | | | | |
|-----|------|--|---|-----------------------------------|
| 第二次 | 第6時 | ○ 「やまなし」で宮沢賢治が伝えたかった思いについて考える。 ・場面の違いについて話し合う。 ・「やまなし」という題にした理由を考える。 ・宮沢賢治の伝えたかった思いについて話し合う。 | ㊦ 「五月」と「十二月」の対比を通して、宮沢賢治の伝えたかった思いを考えている。(発言・ワークシート・ノート) | 宮沢賢治が「やまなし」を通して伝えたかった思いについて話し合う活動 |
| 第三次 | 第7時 | ○ 「イーハトーヴの夢」を読み宮沢賢治の生き方を知る。 ・宮沢賢治の生き方の分かる言動を年表にまとめる。 ・その言動の意味を考える。 ・宮沢賢治の生き方について話し合いまとめる。 | ㊦ 宮沢賢治の生き方について、年表にまとめたことをもとに考えている。(発言・ノート) | 宮沢賢治の生き方について話し合う活動 |
| | 第8時 | ○ 「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の考え方を知る。 ・宮沢賢治の考えが分かる言葉を抜き出す。 ・その言葉の意味を考える。 ・宮沢賢治の考え方について話し合いまとめる。 | ㊦ 宮沢賢治の考え方について、抜き出した言葉をもとに考えている。(発言・ノート) | 宮沢賢治の考え方について話し合う活動 |
| 第四次 | 第9時 | ○ 宮沢賢治の「やまなし」に込めた考えを交流する。 ・「イーハトーヴの夢」に書かれてあった宮沢賢治の生き方・考え方を振り返る。 ・「やまなし」という題にした理由を再度考える。 ・宮沢賢治が「やまなし」で伝えたかった思いを自分の言葉でまとめる。 | ㊦ 「イーハトーヴの夢」でとらえた宮沢賢治の生き方・考え方を「やまなし」の中から見つけ、「やまなし」という題名にした理由を考えようとしている。(発言・ノート) | 「やまなし」の中に込められた宮沢賢治の考えについて話し合う活動 |
| | 第10時 | ○ 宮沢賢治の他の作品を読む。 ・「イーハトーヴの夢」を参考にしながら宮沢賢治の他の作品を読む。 ・その作品に表現されていた宮沢賢治の考えを短くまとめる。 | ㊦ 宮沢賢治の作品を読み、宮沢賢治の考えを短くまとめようとしている。(観察・ノート) | |
| | 第11時 | ○ 宮沢賢治の作品にどんな考えが書かれていたのかを交流する。 ・友達のまとめたものを読み合い、宮沢賢治の考えについて交流する。 | ㊦ 友達の考える宮沢賢治の考えを理解し、宮沢賢治の作品をさらに読みたいと思っている。(観察・ノート) | 友達のまとめたものを読み、友達の考えのよさに気づき合う交流活動 |

6 本時の指導

(1) 目標

「十二月」の場面の様子を、川底とやまなしの描写、かにの親子の気持ちから読み取ることができる。

(2) 展開

| 段階 | 学習内容と学習活動 | 時間 | 教師の支援 (◇) と評価 (◆) | 備考 |
|------|---|----|--|---|
| つかむ | <p>1 前時の学習内容を想起する。</p> <p>2 本時の課題を確認する。 「十二月」の谷川の様子を想像しよう。</p> | 5 | <p>◇代表児童に前時のまとめを読ませ、学習内容を想起させる。「五月」は自然の温かさが表れているだけでなく、自然の怖さ・冷酷さなどが表現されていたことを想起させる。</p> <p>◇場面の様子を読み取ることが本時の課題であることを確認させる。</p> <p>◇読み取りの視点「水の様子」「上からやってきたもの」「かにの親子の様子」について確認する。</p> | <p>教室掲示</p> <p>ノート</p> |
| ふかめる | <p>3 学習課題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「十二月」場面を音読する。 <p>◎ 水の様子について話し合う。</p> <p>とらえさせたい表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ラムネのびんの月光がいっぱいにすき通り 波が青白い火を燃やしたり消したりして 水はさらさらなり 天井の波はいよいよ青いほのおを上げ 波はいよいよ青白いほのおをゆらゆらと上げ 金剛石の粉をはいているよう <p>◎ やまなしが落ちてきた時の様子について話し合う。</p> <p>とらえさせたい表現</p> <ul style="list-style-type: none"> そのとき、トブン 丸い大きなもの 天井から落ちてずうっとしずんで、また上に上っていきました きらきらと黄金のぶちが光りました <p>◎ やまなしを見たり、追いかけていたりしている、かにの気持ちについて話し合う。</p> <p>とらえさせたい表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ああいにおいだな おどるようになって おいしそう ほかほか流れていく 月光のにじがかもか集まりました | 30 | <p>◇学習場面の指名読をする。他の児童は読み取りの視点から文章を黙読する。</p> <p>◇第3時でワークシートにまとめたものをもとに「十二月」の様子を話させる。その際、文章に書いてある叙述に立ち返らせたり、友達の着目した叙述から、自分ならどう想像するかを考えさせたりする。</p> <p>◇「十二月」の水の叙述から「冷たさ」「静かさ」「穏やかさ」「美しさ」などの言葉を使いながら谷川の様子を想像させる。</p> <p>◇やまなしがどういうものであるかについて、文章の叙述に立ち返らせて確かめる。</p> <p>◇左記の表現をおさえ、やまなしがかわせみとは違い、丸く優しく落ちてきた様子をおさえさせる。その際、「かわせみ」との叙述の違いにも立ち返らせる。</p> <p>◇やまなしが落ち、追いかけていくまでの、かにの親子の様子や会話文から、かにがやまなしを「嬉しいもの」「楽しみをもたらしてくれるもの」などととらえていること想像させる。</p> <p>◆ 図比喩表現や擬声語・擬態語をもとに、情景を想像している。(発言・ワークシート・ノート)</p> | <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> |

| | | | | |
|------------------|--|----|---|-----|
| ま と め る | 4 学習をまとめる。 ・ 「十二月」の様子について自分の言葉でまとめる。 ・ まとめの読みをする。 5 学習を振り返る。 6 次時の学習内容の見通しをもつ。 | 10 | ◇話し合いで分かったことをもとにして、自分の言葉で「十二月」の様子についてまとめさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ◆ 図「十二月」の様子を出来事や描写から想像を広げながら読み取っている。(発言・ワークシート・ノート) </div> ◇想像したことを頭に描き表現を味わいながら読むようにさせる。 ◇本時の学習で友達の発言で自分の考えが深まったことや自分の考えが変容したことについて発表させる。 ◇次時は、「やまなし」で宮澤賢治が伝えたかった思いについて考えることを確認する。 | ノート |
|------------------|--|----|---|-----|

(3) 本時の評価規準

| 評 価 規 準 | 具 体 の 評 価 規 準 | | 努力を要すると判断された児童への手だて |
|--|--|---|--|
| | A | B | |
| 圖 「十二月」の様子を出来事や描写から想像を広げながら読み取っている。(発言・ワークシート・ノート) | 「十二月」の様子について、「五月」と比較しながら、谷川の水の描写や、やまなしの描写、かへの親子の言動をもとに自分の想像したことをまとめている。(ノート) | 「十二月」様子について、谷川の水の描写や、やまなしの描写、かへの親子の言動をもとに自分の想像したことをまとめている。(ノート) | ○ 水の様子、やまなしの様子、かへの親子の気持ちについて板書にまとめた言葉について確認する。 |
| 圖 比喩表現や擬声語・擬態語をもとに、情景を想像している。(発言・ワークシート・ノート) | 「五月」と比較しながら、他の児童の発言を聞いて情景を書き足したり、想像して発言したりまとめている。(発言・ワークシート・ノート) | 他の児童の発言を聞いて情景を書き足したり、想像して発言したりまとめている。(発言・ワークシート・ノート) | ○ 比喩表現や擬声語・擬態語の書かれているところを確認する。 |